

平成 24 年 10 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 24 年度第 8 回

先週は能登半島を回っておりまして、帰ってきましてら陽明学シリーズ第四作の河井継之助の再校原稿が出来ておりました。今日、目を通して出版社に返しますと、年内には発行され店頭に出ることになります。

今回の河井継之助は 8 月に書く決めて、赤城の山で 2 週間くらいかけて原稿を書きました。

私が本を書く時に実行する事は、先ず第一に、目の前にある本や資料を読みます。そうすると 1 か月くらいで身体に染み込めます。今回も河井継之助に関する本を段ボール 2 箱分読みましたが、大量にありますから、読んで頭の中で 1 か月くらい寝かせないと発酵しません。1 か月くらいの間に、残るものと残らないものがあるのです。すると頭の中に河井継之助がだんだん沈潜してきます。

もう少し掘り下げると、5 年くらい前までに読んだ資料、それから出かけて行った場所、人様から聞いた話等、染み込んでいるものが浮かび上がってきます。それが有機的に繋がって本の中にポンポンと書ける。これが 2 番目の作業、蘇ってくる記憶です。

3 番目の作業になると、自分の体験談が入ります。例えば、ここ群馬県と河井継之助の縁がどのように繋がっているかということで面白い話があります。17 年くらい前の長岡市の郷土誌の中に、「河井継之助の遺児の墓を訪ねて」という文章がありました。新潟県警の方が書いた文章ですが、それを見ると、「上州桐生の文昌寺に河井継之助の遺児の墓がある」という記述がありました。すぐに文昌寺に出かけて行きましたら、河井継之助の権妻さんの息子が確かにここで育って一生を過ごしたというお墓が残っていました。住職さんから、遺族の方が生きておられるとお聞きして、その方を尋ねてお話を伺って来ました。

長岡や小千谷で聞いても、そういう話は分からないのですが、色々な資料を読んでいくと繋ぎ合われます。最近読んだ資料には、河井継之助の遺児について触れている本が何冊もありました。

佐々木セツという方の書いた本には、マツという芸者が河井継之助とねんごろになって

子供を産んだという記述がありました。但し、かなりフィクションが入った文章でした。実際、遺族の方にあってみると、「河井継之助の血が繋がっていると良いと思うけれども、証拠はありません」との話でした。

別の話では、河井継之助は 37 歳くらいから急激に藩の中樞に駆け上がったわけですが、なぜそんなに引き立てられたのか、これは君主の妻が不倫をして産まれた子供を継之助が引き取って、不倫の後始末をした。不倫相手の松蔵を自分の従僕にして守ったので、松蔵は継之助に最後の最後まで付き添ったという文献もあります。

色々な文献を読むと、史実を載せているものと、フィクションのものが混ざり合っていますから、よくチェックしなければいけません。今の学者の弊害は、文章になっていると信じてしまう点です。誰かが喋ったものを聞き書きで書いても、活字になると大概信じてしまって調べようとしない。ですから人の言ったものを自分の目で見て、出かけて行って確認して、照査しないと危ないということです。

もう一度申します。本を書く上で大事なことは、

1. 今ある色々な資料を足を使って集めて、それを読みこなすこと。
2. 過去に読んだものや過去に調べたもので、自分の記憶の中に沈み込んでいるものをもう一度浮かび上がらせる作業。
3. 自分自身が出かけて行って、歩いて、現地にある資料や人の話を照査し照合してみる。そうしないと、何が本当で何がフィクションかわかりません。こういう作業を繰り返しながら、何度も何度も見直しをしていく。その結果、初校になり、再校になるのです。

そして更に大事な作業があります。以前、『渋沢論語をよむ』を書いた時に一番時間がかかったのは、個人名を書きましたから、本人に原稿を見せて名前を出すことへの了解を戴くことでした。今回はそういう作業は少なくて済んだので助かりました。

本を出す時にはこういう段階を踏んでいるということを、ご参考までに申しました。

ちなみに次に出版するのは渋沢栄一です。以前、小牧温泉に移築した渋沢邸を見に行っただけですが、先月、再訪しました。小牧温泉を作ったのは渋沢栄一の書生さんだった人ですが、そこは倒産していて、今は星野リゾートという会社が経営をしていました。そこで渋沢栄一に関する資料を見て参りました。

現在の渋沢家当主は渋沢雅英さんですが、この方に先日お会いしました。現在 87 歳で、木内孝顧問と姻戚関係（従兄弟同志）です。渋沢栄一に関する本を書かせて戴くご挨拶を

兼ねて、木内孝さんにセッティングして戴いて、お話を伺って来ました。その席で、渋沢雅英さんにも小牧温泉で見た資料（挨拶文）の話を致しました。又、渋沢栄一に関して私が調べた中で、お聞きしたいことを質問させて戴きました。そして、「そこまで調べておられるのであれば、何も文句はございません」という了解を得て参りました。

### 新しいお金の仕組み

本日ご紹介する本は『グローバル化の終わり、ローカルからはじまり』（吉澤保幸著）です。木内孝顧問の推薦です。日本のお金の仕組みは終わり、新しいお金の仕組みが生まれてきている。その具体的な動きが書かれているので、参考にすべき本だと思いました。

この本には書かれていませんが、同じような動きをしている石川県の或る会社に先日行って来ました。木内顧問が進めておられる環成経の集まりで以前にも伺ったことがあり、その時の話はフォーラムでもご紹介しました。能登半島で町おこし・村おこしとして石川県が牧場を始めたのですが、ストップしてしまった。その会社は、3万坪くらいあるその土地を使わせてほしいと県に申請して、新しい町おこしのプロジェクトを始めています。視察して感じたのは、小岩井農場と東京ディズニーランドをミックスしたような施設を造ろうとしていると思いました。他にもトマト農園とブドウ農園を視察させて戴きました。トマト農園の入り口には、「野菜の悪口を言う人は入るべからず。人の悪口を言う人は入るべからず」と書いてありました。

翌日、その会社が作る農場のモデルとなっている所が伊賀にあるというので見学に行きました。伊賀にあるその農場は、豚を飼ってハムやソーセージを作り、販売する所から始めて、今は創業30年で年商約45億円だそうです。小岩井農場を参考に色々と事業を拡大しているそうです。

木内孝さんを軸にしながら、新しい動きが全国的に展開されているなと思いました。群馬県の中でそういった町おこし・村おこしを担当するのは企画部ですから、先日、企画部長さんにお会いして群馬県にそういうものを立ち上げるとしたら候補地になるのはどこらへんかお聞きしました。ということで、これから5年10年後の群馬県の町おこし・村おこしについて、新しいお金という考え方の種をまいて来ました。

### 恒例の質問

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方？

手を挙げなかつた方がいますが、どうされましたか？

（会員・・・朝、やろうと思ったことができなかったからです。）

それは別に嘘ではありません。私は最近、かなり嘘について拡大解釈しています。リップサービスも嘘に入れない、自分で自分の心に嘘をつくというのも気にしない。

渋沢家にも素晴らしい家訓がありますが、先日お会いした渋沢雅英さんに渋沢家家訓をどう感じておられるかお聞きしましたら、「私共は複雑な家系ですから、信用していません」と言っておられました。なるほど、遺族はそういうふうに捉えているのかと思いました。渋沢栄一さんは、「私は下半身については語る資格がありません」とあちこちの講演で喋っていますから、有名な話です。

○ 昨日一日、良い日だったな思える方？

○ 昨日、有難うと言ひ、有難うと言われた方？

最近私は「有難う」と言う時に、嬉しかった理由をきちんと伝えるようにしています。有難う、理由は〇〇だと言うと、相手がニコッとしますから、その笑顔を誉めるように努力しています。そうすると不思議なことに良い人間関係になります。

○ 今朝起きてから今までの間、何か健康法を実践した方？

最近私は家内と、覚えようとしている歌があります。お嬢様ルンバという歌です。65歳を過ぎたご夫婦は、筋力の強化に相手の手をぎゅっと握ってください・・・というような内容です。興味があったら調べてみてください。

## 論語解説

論語の中に時事評論を混ぜて解説致します。

### 【一四】大廟だいびょうに入りて事毎ことごととに問う。

孔子は魯の先祖の周公の廟でお参りをする時に、係の人間に一つ一つ礼儀作法を聞いた。勿論孔子は礼儀を承知していましたが、係の人の面子を潰さないように配慮したわけです。

先日、新潟で行なわれた同友会の集まりでお会いした税理士さんの名刺にTKCとありましたので、「自利利他は知っていますか」とお聞きしました。TKCの創業者の飯塚さんは亡くなった後、禍根を残していますが、それについて尋ねると、知ってはいませんでした。自利利他とはTKCの中で主軸をなすものの考え方だったけれども、出典が飯塚さんの考えていたものとは違っていたことが後から発覚しました。それについては後継者も認めています。

我々も時々、知識の棚卸しをする必要があります。自分で間違えないと思って信じていることも、棚卸しをしてみると間違えて覚えていたという事があり得る。

【一五】<sup>ほうゆう</sup>朋友 <sup>し</sup>死して<sup>き</sup>帰する<sup>ところ</sup>所無ければ、<sup>いわ</sup>曰く、<sup>われ</sup>我に<sup>おい</sup>於いて<sup>ひん</sup>殯せよと。<sup>ほうゆう</sup>朋友の<sup>おくりもの</sup>饋は、<sup>しやば</sup>車馬と<sup>いえど</sup>雖も<sup>まつり</sup>祭の<sup>にく</sup>肉に<sup>あらざ</sup>非ざれば<sup>はい</sup>拝せず。

友人が亡くなって、孔子が家族に「棺を置く所がなければ、私の所で棺に入れてお祀り（殯・かりもがり）をします」と話をされた。友人から戴いたものは、高価な車馬であっても簡単にお辞儀をして感謝したりしない。ただ、お祭りの時のお下がりの肉であれば、丁寧に頭を下げて戴いている。

自分の友人が亡くなった時に、どういうふうに接するか考えてみるとよろしいでしょう。仮に、亡くなった時に後始末をしてくれる身寄りがなかったならば、先にお金を払って、どういうお葬式をだして後始末はどうするか、頼んでおくともよろしいでしょう。今はそういう専門の業者があって、35万から37万くらいが相場だそうです。

朋友とありますが、本当の友達・心友とはどこらへんなのか、亡くなった後面倒をみる・みしてくれる友達はいるか、時々見直しをしてみるとよろしいでしょう。

【一六】<sup>い</sup>寝ぬるに<sup>し</sup>尸せず。<sup>お</sup>居るに<sup>かたち</sup>容づくらず。<sup>しさい</sup>齊衰の<sup>もの</sup>者を見れば、<sup>な</sup>狎れたりと<sup>いえど</sup>雖も<sup>かなら</sup>必ず<sup>べん</sup>変ず。<sup>べん</sup>冕者と<sup>こしや</sup>髻者とを見れば、<sup>な</sup>褻れたりと<sup>いえど</sup>雖も<sup>かなら</sup>必ず<sup>かたち</sup>貌を以てす。<sup>きようふく</sup>凶服の<sup>もの</sup>者には<sup>これ</sup>之に<sup>しよく</sup>式す。<sup>ふはん</sup>負版の<sup>もの</sup>者に<sup>しよく</sup>式す。<sup>せいせん</sup>盛饌有れば、<sup>かなら</sup>必ず<sup>いろ</sup>色を<sup>へん</sup>変じて<sup>た</sup>作つ。<sup>じんらいふうれつ</sup>迅雷風烈には<sup>かなら</sup>必ず<sup>へん</sup>変ず。

寝る時には、仰向けになって死体の様に寝ない。人様とお付き合いする時にはあまり難しい顔をしない。

・・・孔子は仰向けには寝ないと言っていますが、今の時代は仰向けに寝ますね。この時代、身体中ががちがちに固めてうずくまったような感じで棺桶に入れました。お母さんのお腹の中にいた時のように丸まって寝ると身体には良いという話も聞きます。ご自分はどうちらか考えてみてください。

喪服を着ている人には、仲がよくてもきちんとした態度で対応する。冠を被っている人（貴人）や盲の法師を見たなら、親しくしていても必ず態度を改めて接する。軽い喪服の人には、馬車の横木に手をあてて軽く礼をする。その戸籍台帳の木簡を担いでいる人には、若干礼をする。

・・・自分が喪服を着る時、または喪服を着た人応対する時には、氣をつけた方がよろしいし、そういう商売に係わっている人も同じです。私の父親の葬儀で、お坊さんがお経を読んでいる時に、外から葬儀場の従業員の笑い声が聞こえました。母親が「自分が亡くなった時はこの葬儀場は使わないように」と言っていたことを思い出しました。

立派な御馳走が出てきたら、態度をきちんとして立つ。雷が急に鳴り出す、風が凄まじい勢いで吹き始めたら、必ず飛び起きる。

・・・今風に言えば、大震災がありますから、グラグラッと揺れたら下に隠れる。縦揺れしたらすぐに隠れる。それから自分が埋まってしまった時のことを考えて、笛を持っているとよいでしょう。

【一七】<sup>くるま</sup>車に<sup>のぼ</sup>るときは、<sup>かなら</sup>必ず<sup>ただし</sup>正しく<sup>た</sup>立ちて<sup>すい</sup>緩を<sup>と</sup>執る。車の中<sup>なか</sup>には、<sup>ないこ</sup>内顧せず、<sup>しつげん</sup>疾言せず、<sup>しんし</sup>親指せず。

馬車に乗る時は、正しい姿勢で引き縄を握り転がり落ちないようにする。車の中にいる時は、後ろを振り返ったりしない。大声で喋らない。他人を指ささない。

貴人の態度動作について注意しています。

【一八】<sup>いろ</sup>色みて<sup>ここ</sup>斯に<sup>あが</sup>挙り、<sup>かけ</sup>翔りて<sup>のち</sup>後に<sup>とど</sup>集まる。曰く、<sup>いわ</sup>山梁の<sup>さんりょう</sup>雌雉、<sup>しち</sup>時なるかな <sup>とき</sup>時なるかなと。<sup>しろ</sup>子路 <sup>これ</sup>之を<sup>きょう</sup>供す。<sup>み</sup>三たび<sup>か</sup>嗅ぎて<sup>た</sup>作つ。

これは状況判断についての話です。

雉が、人が来るのを見て驚いて飛びあがって枝に止まった。孔子が言うには、山の中の橋にいる雉は、なるほど状況判断が素晴らしい。危険を察知してタイミングよく飛び立った。

子路が雉に向かっていくと、雉は三度鳴いて飛び去った。

### 渋沢栄一を見直す

次は渋沢栄一について書こうと思って、取り掛かっています。

人間は衝撃的な体験をすると、そこで人が変わって、又ぐんと伸びるものです。渋沢栄一にも、自分自身を変えた衝撃の体験というものがいくつもありました。渋沢栄一が日本の国を変えた衝撃的な体験とは、フランスでの体験です。フランスで開かれる万国博覧会に徳川慶喜が招待をされましたが、自分で行けないので弟の昭武を名代で出しました。お

供が 29 名、渋沢栄一はその中の随行員でした。

もともと渋沢栄一は頭が柔軟で、新しいものを許容する心がありました。フランス行き  
の船の食事が出されたバターやコーヒーが美味しかったと、「牛の乳で作りたる美味なる食  
べ物あり」とか「一口飲むと爽やかな香味が漂って、実にえもいわれぬ風情である」とい  
った具合に書き残しています。又、フランスに着いてから、ちょん髷を切った顔写真を撮  
って奥さんに送っています。それを見た千代夫人は、筆不精で栄一の手紙に返信をしな  
かったのですが、さすがに激怒して返事を書いたという話が残っています。

渋沢栄一さんが衝撃的な体験として日記に書き残しているのは、噴水とガス灯です。「フ  
ランスという国は凄い。道を歩くと至る所に噴水があって、埃が立たないように水が出て  
いる。水道というもので、ひねると水が出て来る。これは大変な仕組みだ。」「夜、道を歩  
くとガス灯がついていて、昼間と同じくらいの明るさだ。これは大変なものだ」と書いて  
います。その仕組みが知りたくて、栄一は地下に潜っています。地下に水道管やガス管が  
張り巡らされているおかげで、ガス灯が点き、水道が出ているのだと感心し、是非日本に  
持って帰って日本でも同じようなものを作りたいと思ったわけです。同行した 29 名は、「凄  
い、便利なものだ」で終わる。けれども栄一は好奇心があって、実際に調べてみて体験を  
した。その体験の仕方が並みの人間ではないから、本人には衝撃的な体験になって、そこ  
から人が変わっていったわけです。

更に調べてみると、この仕組みは国がやっているのではなくて、一般大衆がお金を銀行  
に預けて、銀行が大きなお金にして、会社に貸し出して事業をやっている。つまり株式会  
社という制度に行きついたわけです。この株式会社の制度を日本に持って帰って、合本法  
を主張し始めました。

実際に、栄一はフランスで公債を買っています。その時はべらぼうな複利だったのでし  
ょう。1 年ほどして日本に帰る時には、金利で利益が出ましたから、自分たちの旅費が浮き  
ました。更に日本から持って行ったお金よりも多くお金が残りました。

日本に帰って来て静岡藩に戻り、随行した人たちの収支明細を全てきちんと清算し報告  
しました。利益の出た分は藩内に分配しました。このことが静岡の新聞で紹介され、明治  
政府の役人の目に止まり、明治政府に引っ張られることになりました。今で云う大蔵事務  
次官、もしくはその一つ手前のポストまで行きました。

渋沢栄一の人生がどんどん変わっていったわけですが、それは衝撃の体験をした時に、  
興味を持って内容・仕組みを調べ、自分で実践して、その成果・果実を得て、私利私欲な  
く広げていった。それが周りの人間に認められて、どんどん渋沢栄一の人生を変えていく  
ことに繋がりました。

フランスでの体験の他に、渋沢栄一の衝撃的な体験について、昨晚、目次を考えました。

- ・子供の商売初体験
- ・代官の無理無体
- ・テロを決行しようとして、中断した時の体験
- ・必死のマラソン（一橋家に仕官する際、必死のマラソンをして駆け抜けた）
- ・借金返し（ネズミのこんがり焼きを食べて借金を返した）
- ・大沢源次郎捕縛体験（新撰組と手を組んで）
- ・大久保利通との論争
- ・水道事業に対して、襲撃事件
- ・死にかけた大病

挙げてみると、渋沢栄一は結構衝撃的な体験を何度も何度もしています。その度毎に脱皮して、人間が変わっていったということが、渋沢栄一の中で見えてきました。

## 時事評論

今朝の新聞に「段ボールの原紙が 2 年半ぶりに下落した」という記事がありました。神藤さんの会社には何かメリットがありますか？

（・・・あまり良いことはありませんね）

他にも、ガソリンの卸値が値上げとありました。

だんだんとスタグフレーションが水面下で進行中であると感じています。スタグフレーションとは、不況下における物価高ですから、どんどん日本の国が悪くなるのが見えてきます。

また、パソコンの遠隔操作で、男性 4 人が誤認逮捕されました。日本のセキュリティーは滅茶苦茶ですから、当然想定されるものです。以前申しましたが、日本の国を制圧するのに、コンピューターを使って日本の国の中枢を麻痺させて、その間に軍隊が入って来て 3 日間で日本を制圧するという図式が、信憑性を帯びてきたと感じます。

ですからペマ・ギャルポさんの話が聞きたいと思っているわけです。日本がどんどん侵略されつつある。スタグフレーションも始まりつつある。デノミを起さる。デフォルトも起さる。という実感を、最近の新聞・テレビを見て強く感じています。